

医療法人社団 明照会
医療福祉スクエア

自然災害発生時における業務継続計画

児童発達支援・放課後等デイサービス なないろ
生活介護 かがやきテラス

法人名	医療法人社団 明照会	種別	障害福祉サービス
代表者	小倉 行雄	管理者	下野 光一
所在地	愛知県大府市吉田町半 の木 43	電話番号	0562-48-2880

1. 総論

(1) 基本方針

施設・事業所等としての災害対策に関する基本方針を記載する。

1. 事業継続の重要性の認識	当障害福祉サービスは、利用者の生活支援や社会参加のために必要不可欠なサービスであり、その提供が中断されることは大きな影響を及ぼす。従って、事業継続の重要性を理解し、緊急時にもサービス提供を維持することを最優先とする。
2. リスク評価と対策の策定	地域の気象条件や地震リスク、感染症の流行などを考慮し、可能なリスクシナリオを洗い出す。それに基づいて、施設の耐震性強化、非常用物資の備蓄、スタッフの災害対応訓練など、具体的な対策を策定する。
3. 人的資源の確保	スタッフの安全を最優先とし、災害時におけるスタッフの安否確認手順や代替の配置体制を整備する。また、スタッフの健康管理やメンタルヘルスの支援も重視する。
4. 施設や設備の管理	施設の定期的な点検や保守を行い、安全性を確保するとともに、万が一の際は迅速な復旧を図るための手順を明確化する。また、必要に応じて代替施設の確保や避難所の指定も検討する。
5. 情報管理とコミュニケーション	緊急時における情報共有のための体制を整え、スタッフや利用者、関係機関との円滑なコミュニケーションを確保する。災害時の情報更新や安全情報の提供手段も検討し、透明性と信頼性を確保する。
6. 事業継続計画の定期的な見直しと改善	BCP は定期的に見直し、新たなリスクや変化した環境に対応するための改善を行う。また、災害時の対応を模擬する訓練や演習を実施し、BCP の有効性を確認する。

(2) 推進体制

平常時の災害対策の推進体制を記載する。

主な役割	部署・役職	氏名	補足
全体統括		小川 直人	
利用者・スタッフ安否確認		酒井 征代	
保護者連絡		下野 光一	
火災確認 電気普及		服部 佑哉	

(3) リスクの把握

① ハザードマップなどの確認

施設・事業所等が所在するハザードマップ等を掲載する(多い場合は別紙として巻末に添付する)。

大府市ハザードマップ 別紙

② 被災想定

大きな被害が予想される災害について、自治体が公表する被災想定を整理して記載する。

【自治体公表の被災想定】

交通被害

道路:155号線遮断

橋梁:なし

鉄道:なし

ライフライン

上水:大府市ハザードマップ 別紙参照

下水:大府市ハザードマップ 別紙参照

電気:大府市ハザードマップ 別紙参照

ガス:大府市ハザードマップ 別紙参照

通信:大府市ハザードマップ 別紙参照

【自施設で想定される影響】別紙①参照

(4) 優先業務の選定

① 優先する業務

(どの業務を縮小・休止するか)を法人本部とも連携して決めておく。

<優先する業務>

(1)現利用者の安全確保 電気の確保

(2)内服の提供

(3)排泄の介助 食事の提供

<当座休止する業務>

(1)新たな利用者のお預かり

(2)活動 療育 リハビリ

(3)

② 優先する業務

上記優先する事業のうち、優先する業務を選定する。

優先業務	必要な職員数			
	朝	昼	夕	夜間
安全確保 電気の確保	2人	2人	2人	2人
内服・食事支援	2人	2人	2人	2人
排泄支援	2人	2人	2人	2人

(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

① 研修・訓練の実施

訓練実施の方針、頻度、概要等について記載する。

避難訓練 2回/年 4月 10月
 BCPの見直し 1回/年 5月
 電気普及実演習 1回/年 5月

*訓練が一過性で終わらず、継続して実施することを担保する。

② BCPの検証・見直し

評価プロセス(●●委員会で協議し、責任者が承認するなど)や定期的に取り組の評価と改善を行うことを記載する。

BCPの見直しと改善 1回/年 5月

2. 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策 【別紙②参照】

① 水害対策

対象	対応策	備考
テラス1階	氾濫前にAFCに避難	

(2) 電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
リーフからの給電システム	リーフからの給電システム

AFC 自家発電	自家発電機

(2) ガスが止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と代替策を記載する。

稼働させるべき設備	代替策
なし	

(3) 水道が止まった場合の対策

① 飲料水

アクアクララ 6本 7日分×10人分
 お茶 2L/6本 3日分×10人分
 水 2L/18本
 とろみ粉 3日分×2人分

② 生活用水

浄化槽水槽タンク貯留分

*貯水槽を活用する場合は容量を記載。ポリタンクを準備する場合は容量と本数を記載。

(4) 通信が麻痺した場合の対策

携帯電話 1台 スタッフ個人の携帯電話 2台
 充電:電気普及後行う

(5) システムが停止した場合の対策

主要データはすべてクラウド管理している。
 利用者の緊急連絡先や個人情報はテラスファイル内にあり
 連絡帳の送信は行わない

(6) 衛生面(トイレ等)の対策

① トイレ対策

【利用者】

日常でトイレを使用している利用者:尿器 オムツを使用
 日常でオムツを使用している利用者:オムツを使用

汚物はトイレにて蓋つきのバケツに破棄する
オムツ大人用 2袋 オムツ子ども用 2袋 パット 2袋 10人分×7日分

【職員】

非常用トイレを使用 10人×7日分
汚物はトイレにて蓋つきのバケツに破棄する

② 汚物対策

排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

汚物はトイレにて蓋つきのバケツに破棄する

必要品の備蓄

スタッフ 2名分 利用者 6人分(常食 3人 やわらか 1人 ムース食 2名(注入))

常食 5人分×7日間 105食

やわらか 1人分×7日間 21食

ムース食 2名分×7日間 42食

【飲料・食品】別紙③参照

【医薬品・衛生用品・日用品・備品】別紙④参照

(6) 資金手当て

災害に備えた資金手当て(火災保険など)を記載する。

緊急時に備えた手元資金等(現金)を記載する。

事業所小口現金 10万円程度

*地震保険の保険契約については地域によって制限がある。

緊急時の対応

(1) BCP発動基準

地震の場合、水害の場合等に分けて BCP を発動する基準を記載する。

【地震による発動基準】

近隣の道路が遮断され、保護者のお迎えが困難となった場合

近隣の道路が遮断され、スタッフの帰宅が困難となった場合

【水害による発動基準】

大府市緊急時避難指示により指定された場合

隣接する川の水位が上昇し、氾濫の危険が高まったと判断された場合

また、管理者が不在の場合の代替者も決めておく。

管理者	代替者①	代替者②
下野 光一	酒井 征代	テラススタッフ

(2) 行動基準

発災時の個人の行動基準を記載する。

<p>1, 安全の確保 まず自分自身や周囲の安全を確保することが最優先である。その後、落ち着いて冷静に行動し安全な場所に避難する。 他のスタッフ・利用者の安全を確認する</p> <p>2, 情報収集 公式の情報や放送を確認し、災害の情報や避難勧告などの把握に努める。</p> <p>3, 避難準備 非常用の飲料水や非常食などをすぐ使用できるように準備する。</p>
--

対応体制

対応体制や各班の役割を図示する。代替者を含めたメンバーを検討し、記載する。

医療福祉スクエア	責任者	代替者
統括:	小川 直人	辻川 智美
NK テラス:	下野 光一	酒井 征代
利用者・スタッフ安否確認:	酒井 征代	テラススタッフ

(3) 対応拠点

緊急時対応体制の拠点となる候補場所を記載する(安全かつ機能性の高い場所に設置する)。

第1候補場所	第2候補場所	第3候補場所
医局	談話室	テラス 2 階会議室

(4) 安否確認

① 利用者の安否確認

震災発生時の利用者の安否確認方法を検討し、整理しておく(別紙で確認シートを作成)。

なお、負傷者がいる場合には応急処置を行い、必要な場合は速やかに医療機関へ搬送できるよう方法を記載する。

【安否確認ルール】

- ① 自身の安全確認
- ② 安全であることを共通の連絡ツールにて共有する
- ③ 連絡が取れない者への再連絡

【医療機関への搬送方法】

- ① 医療福祉スクエア医師へ確認し搬送を行うかどうか判断する。
- ② 医師への連絡が困難な場合は緊急時対応として個々のスタッフが対応する

② 職員の安否確認

地震発生時の職員の安否確認方法を複数検討し準備しておく(別紙で確認シートを作成)。

(例)携帯電話、携帯メール、PCメール、SNS等

【施設内】

呼名にて確認

送迎中→共通の連絡ツールにて連絡

職員安否確認シートを用いてチェックする【別紙⑤参照】

【自宅等】

現在の場所と安否を共通の連絡ツールにて送信

(6) 職員の参集基準

発災時の職員の参集基準を記載する。なお、自宅が被災した場合など参集しなくてもよい場合についても検討し、記載することが望ましい。

テラス利用者の人数に応じて、必要なスタッフの人数を確保する。

○AFCに戻る利用者以外で、保護者のお迎えが困難な利用者6人未満な場合
スタッフ参集 2名(うち1名は看護師)

○スタッフは自宅家族と連絡をとり、必要であれば帰宅を行う。

○当事業所休日の場合 あおぞらファミリークリニックの応援スタッフとして可能であれば集結する。

【自動参集基準の対象外】

○自身が被災し避難場所にいる場合

○自身家族が被災し避難場所にいるためお迎え等が必要な場合

○自身が被災し今後の対応が困難な場合

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

地震などで一時的に避難する施設内・施設外の場所を記載する。また、津波や水害などにより浸水の危険性がある場合に備えて、垂直避難の方策について検討しておく。

【施設内】

	第1避難場所	第2避難場所
避難場所	テラス内 なないろテラス	水害により当事業から非難する場合 あおぞらファミリークリニック談話室
避難方法	バギーに乗車し誘導 ベッドごと移動する	バギーに乗車し誘導 ベッドごと移動する 階段は利用者をシートにくるみスト レッチャーの代わりにして運ぶ

【施設外】

	第1避難場所	第2避難場所
避難場所	大府市立 吉田小学校	あいち健康プラザ
避難方法	バギーにて移動 徒歩	バギーにて移動 徒歩

(7) 重要業務の継続

優先業務の継続方法を記載する(被災想定(ライフラインの有無など)と職員の出勤率と合わせて時系列で記載すると整理しやすい)。

経過目安	日勤職員のみ	発生後 6 時間	発災後 1 日	発災後 3 日
職員数	出勤率 70%	出勤率 20%	出勤率 20%	出勤率 20%
	8 名	2 名	2 名	2 名
在庫量	100%	90%	70%	20%
ライフライン	停電、断水	停電、断水	停電、断水	断水
重要業務 の基準	生命を守るため 必要最低限	医療的ケア・ 食事中心、その 他は減少・休止	ほぼ通常、一部 減少・休止	ほぼ通常
医療的ケア	必要に応じて	必要に応じて	必要に応じて	ほぼ通常
食事の回数	減少	減少	朝・昼・夕	ほぼ通常
食事支援	必要な方に支援	必要な方に支援	必要な方に支援	ほぼ通常
入浴支援	清拭	一部清拭	一部清拭	ほぼ通常
排泄支援	必要な方に支援	必要な方に支援	必要な方に支援	ほぼ通常
洗濯	必要な方に病衣	必要最低限	必要最低限	ほぼ通常
シート交換	汚れた場合	順次、部分的に	順次、部分的に	ほぼ通常

		交換	交換	
--	--	----	----	--

(8) 職員の管理(ケア)

① 休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所
当事業所内	当事業所内
	2階 休憩室 更衣室

② 勤務シフト

震災発生後、職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性がある。参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフト原則を検討しておく。

<p>【災害時の勤務シフト原則】 利用者保護者がお迎えに来るまでの間 スタッフ2名で対応を継続 休憩は交代で行う。 出勤が可能なスタッフは可能な限り出勤し、災害時の対応に当たる</p>
--

(10) 復旧対応

① 破損個所の確認【別紙⑥】

② 業者連絡先一覧の整備

各利用者のテラスファイル スケジュールを確認し必要な業者に連絡する。

③ 情報発信(関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応)

公表のタイミング、範囲、内容、方法についてあらかじめ方針を定めて記載する。

<p>各関係機関(利用者が利用する放デイ等)には 利用者の安否を含め、どうするか判断する。</p>
--

4. 他施設との連携

(1) 連携体制の構築

① 連携先との協議

連携先と連携内容を協議中であれば、それら協議内容や今後の計画などを記載する。

統括小川氏に共通の連絡ツールにて連絡
常に情報共有を行い、必要時は双方に支援を依頼する。
協力体制あり

② 連携協定書の締結

地域との連携に関する協議が整えば、その証として連携協定書を締結し、写しを添付する。

地域のネットワーク等の構築・参画

施設・事業所等の倒壊や多数の職員の被災等、単独での事業継続が困難な事態を想定して、施設・事業所等を取り巻く関係各位と協力関係を日ごろから構築しておく。地域で相互に支援しあうネットワークが構築されている場合はそれらに加入することを検討する。

【連携関係のある医療機関・施設・法人】

施設・法人名	連絡先	連携内容
同法人 あおぞらファミリークリニック	共通の連絡ツール	情報共有と協力依頼
同法人 あおぞらファミリークリニック整形	共通の連絡ツール	情報共有と協力依頼
メイコネ 虹とり	共通の連絡ツール	情報共有と協力依頼

【連携関係のある社協・行政・自治会等】

名称	連絡先	連携内容
大府社会福祉協議会	0562-48-1805	情報共有と協力依頼
大府障害福祉課	0562-85-3558	情報共有と協力依頼
大府市子ども未来課	0562-45-6229	情報共有と協力依頼

(2) 連携対応

① 事前準備

連携協定に基づき、被災時に相互に連携し支援しあえるように検討した事項や今後準備すべき事項などを記載する。

自然災害を想定した合同訓練の実施
緊急時連絡先の確認

利用者情報の整理

避難先施設でも適切なケアを受けることができるよう、最低限必要な利用者情報を「利用者カード」などに、あらかじめまとめておく。

テラスファイル スケジュールで管理(紙媒体)

② 共同訓練

連携先と共同で行う訓練概要について記載する。

あおぞらファミリークリニック あおぞらファミリークリニック整形 訪問看護ステーション虹とりと共同で自然災害を想定した共同避難訓練を実施

5. 地域との連携

(1) 被災時の職員の派遣

(災害福祉支援ネットワークへの参画や災害派遣福祉チームへの職員登録)

地域の災害福祉支援ネットワークの協議内容等について確認し、災害派遣福祉チームのチーム員としての登録を検討する。

(2) 福祉避難所の運営

① 福祉避難所の指定

福祉避難所の指定を受けた場合は、自治体との協定書を添付するとともに、受入可能人数、受入場所、受入期間、受入条件など諸条件を整理して記載する。

社会福祉施設の公共性を鑑みれば、可能な限り福祉避難所の指定を受けることが望ましいが、仮に指定を受けない場合でも被災時に外部から要援護者や近隣住民等の受入の要望に沿うことができるよう上記のとおり諸条件を整理しておく。

福祉避難所とはならない。

必要時、利用者はあいち小児センター あいち健康プラザなど、非常電源の設備があるところへ移動する

② 福祉避難所開設の事前準備

福祉避難所として運営できるように事前に必要な物資の確保や施設整備などを進める。

また、受入にあたっては支援人材の確保が重要であり、自施設の職員だけでなく、専門人材の支援が受けられるよう社会福祉協議会などの関係団体や支援団体等と支援体制について協議し、ボランティアの受入方針等について検討しておく。

利用者が保護者のもとへ帰り次第、一時的にスタッフも解散とする。
ライフライン復旧後再集結し、営業再開に向けて復興に当たる。

通所系・固有事項

【平時からの対応】

保護者会にて緊急時の対応を保護へ周知

【災害が予想される場合の対応】

予報・警報などで災害が予想される場合は事業所を休業する。

【災害発生時の対応】

すぐに保護者へ連絡しお迎えを要請

お迎えが困難な場合のみテラスにてお迎えまでの時間を過ごす。

事業所の名簿を用いて安否確認を実施する。

<改訂>

改訂日	内容	担当者
令和6年2月20日	作成	酒井 征代

別紙①

自施設の被害想定

	当日		2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目	6 日 目	7 日 目	8 日 目	9 日 目
電力		自家発電機 →	復旧	→	→	→	→	→	→	→
EV	あり		→	→	→	→	→	→		
飲料水	あり		→	→	→	→	→	→		
生活用水	あり		→	→	→	→	→	→		
ガス	なし									
携帯電話	あり		→	→	→	→	→	→		
共通の連絡 ツール	あり		→	→	→	→	→	→		

【別紙②】施設・設備の平時点検リスト

場所/対象	対応策	備考
建物(柱)	柱の補強/X型補強材の設置	旧耐震基準設計のもの
建物(壁)	柱の補強/X型補強材の設置	旧耐震基準設計のもの
パソコン	耐震キャビネット(固定)の採用	
浸水による危険性の確認	毎月 1 日に設備担当による点検を実施。年 1 回は業者による総合点検を実施。	
外壁にひび割れ、欠損、膨らみはないか	同上	
暴風による危険性の確認	特に対応せず	3 月までに一斉点検実施
外壁の留め金具に錆や緩みはないか		
屋根材や留め金具にひびや錆はないか		

別紙③

必要品の備蓄

【飲料・食品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
常食	21 食	6 か月	冷凍庫	テラススタッフ
やわらか食	21 食	6 か月	冷凍庫	テラススタッフ
ムース食	21 食	6 か月	冷凍庫	テラススタッフ
おかゆ	3 食	2 年	キッチン上の棚	テラススタッフ
常食アルファ米	90 食	5 年	北倉庫	テラススタッフ
マジックライス	20 食	5 年	北倉庫	テラススタッフ
やわらか食	18 食	5 年	北倉庫	テラススタッフ
お茶 2L	6 本	6 か月	キッチン下の棚	テラススタッフ
水	18 本	5 年	北倉庫	テラススタッフ
常食	95 食	5 年	北倉庫	テラススタッフ

別紙④参照

【医薬品・衛生用品・日用品・備品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
ベッド マット	10	かがやき・なないろ	テラススタッフ
布団	3	かがやき・なないろ	テラススタッフ
懐中電灯	1	ホール	テラススタッフ
トイレトペーパー	2袋	北倉庫	テラススタッフ
おしりふき	9 袋	北倉庫	テラススタッフ
ごみ袋	120 袋	北倉庫	テラススタッフ
色付きごみ袋	30 袋	北倉庫	テラススタッフ
ティッシュ	10箱	北倉庫	テラススタッフ
ゴム手袋	20箱	ホール倉庫	テラススタッフ
手指消毒	5本	ホール倉庫	テラススタッフ
タオル類	6袋	脱衣所	テラススタッフ
おしぼり	2袋	ホール倉庫	テラススタッフ
お皿・コップ類	各 120 枚	北倉庫	テラススタッフ
簡易トイレ	120 枚	北倉庫	テラススタッフ

大人用オムツ	60枚	北倉庫	テラススタッフ
尿取りパット	240枚	北倉庫	テラススタッフ
ハンドソープ	2本	ホール倉庫	テラススタッフ
マスク	5箱	北倉庫	テラススタッフ
割りばし	100本	キッチン上の棚	テラススタッフ

【別紙⑤】職員の安否確認シート

職員氏名	安否確認	自宅の状況	家族の安否	出勤可否
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()

【別紙⑥】建物・設備の被害点検シート

	対象	状況(いずれかに○)	対応事項/特記事項
建物・設備	なないろ	重大／軽微／問題なし	
	かがやき	重大／軽微／問題なし	
	なないろトイレ	重大／軽微／問題なし	
	かがやきトイレ	重大／軽微／問題なし	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
	脱衣所・浴室	重大／軽微／問題なし	
	ホール・玄関	重大／軽微／問題なし	
	面談室	重大／軽微／問題なし	
	キッチン	重大／軽微／問題なし	
(フロア単位) 建物・設備	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	ラック	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	
	照明	破損・落下あり／被害なし	
	...		